

# 2015 年度湘南藤沢学会「研究助成金」成果報告書

「慶應義塾大学 SFC × 口永良部島」の島おこし支援協働プロジェクト

慶應義塾大学環境情報学部 3 年 今西 淳樹

## 1. 活動日程・会場

日時：平成 27 年 8 月 3 日～8 月 13 日

場所：屋久島離島開発センターにて、「口永良部島これから研究室」を開室した。

参加者は別紙の通り。

## 2. 活動の目的

2015 年 5 月 29 日、鹿児島県口永良部島の新岳噴火に伴い、全島民は屋久島への避難を余儀なくされた。長期的な避難生活の中で、島民同士、離散して住まう現状よる人的ネットワークの低下が予想される。島民がいずれ口永良部島に帰島する時までコミュニティを継承し、島に戻ったときにこのコミュニティが機能できるような人的ネットワークを形成する事を目標として活動を行う。これまでの繋がり強いコミュニティを維持するため、大学生が島民同士をつなぐ媒体となり、島民と大学生共が集い共に現状で抱える問題点や島の将来について話しやすいような環境、場づくりなどの活動展開を目指す。これまで池田研究室口永良部島プロジェクトが培ってきた島民との信頼関係を生かして、島民同士をつなぐ交流活動である”島おこし活動”としてプロジェクトを進めて行きたいと考えている。

## 3. 活動の成果

これから研究室では、連日、屋久島に避難している口永良部島島民が研究室に来室し、島の懐かしい思い出や、噴火時の体験、避難ルート、自分の家の位置や現在の状況、帰島後の夢や目標を研究室の研究員である我々大学生と意見交換がおこなわれた。また、単純に口永良部島島民と慶應大学生だけでなく、口永良部島の田んぼを屋久島で復活させるなど具体的な話も交わされ、口永良部島島民と屋久島島民との新たなつながりや交流を生み出した。また、これから研究室を通す事により、屋久島島民と大学生の交流も増え、屋久島島内における口永良部島の認知度というものも高める事ができた。離島開発センターがこ

れから研究室の本拠地ではあったが、屋久島島内にある口永良部島の島民が住んでいる仮設住宅にも出向き、「出張これから研究室」という事でより多くの口永良部島島民と島の将来、帰島後の目標について意見交換をおこなうことが出来た。

#### 4. 活動の展望・課題

今後の活動として、タブレット端末を用いて島民の意見をまとめ、東京と屋久島という距離を超えてリアルタイムに遠隔で情報整理ができるシステムをつくるなどの意見も出ている。また、「口永良部島これから研究室」を ORF などで開催し、東京でも口永良部島をさらに広め、帰島後に島で行う活動のアイデアや、応援メッセージなどをさらに多くの人々から集めていく予定である。

↓口永良部島これから研究室の様子



#### 5. 謝辞

「慶應義塾大学 SFC × 口永良部島」の島おこし支援協働プロジェクトを行うにあたり、湘南藤沢学会様に厚く御礼申し上げます。